

【従業員からの要望、交通アクセス、学生のインターシップについて】

A： 当社は、約20年前、県、市などの大変熱心なお誘いをいただき、ここへ進出をした経過がございます。はじめ7名から出発して、現在129名の従業員となっており、大手電機メーカーからのそれなりの評価はいただいております。いろいろと県の各部署の皆さん方、あるいは市役所の皆さん方にご指導を得たり、ご協力を得て、今まで来ることができました。厚くお礼申し上げたいと思います。

「対話と実行」座談会ということで、従業員からアンケートを取っておりますので、主なところだけ説明いたします。

- ・学童保育を県としてお願いしてほしい。
- ・国道56号線の中村警察署付近の信号を渋滞緩和のため、変更を考えてほしい。
- ・休日出勤など子どもを預けられる託児所を工業団地内に検討してほしい。
- ・宿毛市内の小児科の診療時間をもう少し延ばしてほしい（平日の時間延長・土曜日の診療）。
- ・宿毛市役所の窓口を土曜日に開けてほしい。
- ・子どもの医療費を是非、県内統一で無料化の方向に県として取り組んでほしい。
- ・自動車専用道路を早く作ってほしい。知事が声を大にして、国に対して言ってもらいたい。
- ・「土佐・龍馬であい博」で、宿毛の名前が出てないパンフレットが見受けられるので、なんとかしてほしい。
- ・工業団地の付近に託児所がほしい。
- ・高規格道の平田側出口の交差点の信号の改善をしてほしい。
- ・強みである農業をもっと活性化してほしい。
- ・定年退職した元気な方と、子育て中の親を結ぶネットワークを考えてほしい。（メンタルの部分で子育て中の親を助けてあげるといふネットワークと、助けてもらった親が年配になったときに、逆に助けてあげるといふ地域が理想である。）
- ・子育て支援は現金配分以外の方法があるのではないかと。保育サービスの充実（親の出勤時間に対応して保育園の預かり時間を設定するなど）
- ・父親の子育て参画（家事の分担など）

最後の要望は、たまたま当社の7月の土曜日がオール出勤となったので、その関係もあったのでは、と会社として反省しなければならないと考えておりますが、県、あるいは市、国に対してこういう要望を持っているということを是非ご認識の上で県政・市政運営をお願いしたいと思っております。

次に、企業からの要望ですが、窪川から西、是非中村まで高速道路を作っていただきたい。また、四国4県の知事が3本ある本四架橋のうち、瀬戸大橋から無料化を進めていただきたい。

それと、土佐くろしお鉄道は、宿毛市からの出張等については非常に便利ですが、昼

間の宿毛駅までの便がなく中村駅までなので、来客に対応できません。場合によっては、高知空港まで我々は迎えに行っております。この工業団地は、お客さんが来てもらわなかったら発展はしないと思います。

また、企業として、卒業間際の高等学校、中学校の皆さん方が勉強会に来られるのを受けております。学校にも、その学校の先輩を1時間コース、1時間半コースで我々から出しております。

企業としての責任、この地域の発展や従業員の幸せにも配慮しながら、今後の10年、20年、30年先に向かって努力をしますので、是非、県および市の関係者の皆様方、ご協力、ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

知事： まず、このアンケートいただいて思うのは、やはり子育てと働くということとの両立をもっともっと図れるようにというご要望、ご指摘が非常に多いと思うところです。

1つは、工業団地内の託児所とか、できれば企業それぞれでの託児所を作っていられるようなご努力も是非お願いしていきたいと思えますし、やっぱり官としてやっていくべきことというのは、いくつかあるなと思っております。

それで、今、いろいろ地域によって違いがあるかもしれませんが、教育の面からも、それから働くお母さん支援という点からも、もっと言えば究極的には少子化対策という点からも、働きながら子育てができる環境づくりということに、かなり力を入れようとしているところです。

第1に、「放課後の学びの場」というものを県内全域の小学校に今作ろうとしているところです。「放課後子どもプラン」とか「放課後子ども教室」というのがあります。週に1回だけというのではなくて、3日から4日以上は実施をし、かつ実際に勉強を見てくれるというような場、それを小学校1年生から6年生まで、さらには中学生も対象として、こういう学びの場というのを作るという取り組みをやろうとしています。県の教育委員会と宿毛市の教育委員会で今お話をさせていただいていると思うんですが、そういう取り組みをまずやっています。

もう1つは、「あったかふれあいセンター」というのを今一生懸命やっています。高知型福祉として、子育てのネットワークや（現金配分以外の）保育サービスの充実としていただいたご意見などに関わる話だと思うんですが、本来、都会型だったら民間託児所があって、お金払ってそこに預かってもらう、もしくはベビーシッターをお願いすることなんだろうと思います。けれど残念ながら、高知県のように子どもの数が少ないところ、いわゆる人口が絶対数として少ないところは採算が合わないですね。だからそういう施設が少ない。民間でそういうサービスが発展しないので、そういう中で苦労されるというパターンというのが非常に増えているんだと思います。

これは実は子育てだけでなく、障害者支援とか、それから高齢者介護の問題も同じです。要するにそれぞれの機能ごとに1つの施設を作ろうとしても採算が合わない

いうわけです。ですから目指すべき道は、小規模多機能型。1ヶ所で介護も子育て支援も、それから障害者の皆さんのケアもできるというのは、非常にいい。そうなれば、一定利用者は集まりますから、採算が合うということがあります。

そういうものを今目指して、県内に作っているところなんです。今年度中に44ヶ所「あったかふれあいセンター」として設置する予定です。今現在で28ヶ所設置をされています。例えば沖ノ島になかった保育園ができたとか、他にもそういうことが復活をしてきたりとかあります。県内で先ほどのご意見いただいた子育て支援的な発想の下での施設というのをさらに作ろうとしているところです。

市町村からそういうニーズがあるということで、手が挙がってくれば、必ずこの「あったかふれあいセンター」については対応したいと考えますので、是非ニーズの声を上げていただきたいと思います。

そしてもう1つ、保育園が預かってくれるまでの時間と、従業員の方々の終業時間のズレの問題。保育園が終業する時間が早いが故に、毎日早退をしないといけない。結果として雇ってもらえないということが非常にたくさんある。これは高知市なんかでも深刻な課題であります。ところが、延長保育ができるようにするということが意外に大変なことで、今の保育園のシフトですと、6時ぐらいまでが、保育士さんたちの限界時間なんです。もしこれを1時間延長するためには2シフト敷かないといけない。2シフト敷くということになると、経営で合わないということが多々あるので、これがなかなか実現しないというわけだと思います。

それに対してどうしていくのか。非常にニーズが強いところについての延長保育のあり方をその採算面も合わせてどう考えるかという問題は、恐らく来年に向けての大きな課題だろうと思っているところですし、国とも今話をしているところです。

1つの活路として考えられるのは、「保育ママ」という制度があるんですね。ところが現在は、ある1人の保母さんが保育園の代わりを果たすという、乳幼児の数が少ないところで保育園は設けられないから、「保育ママ」が数人の子どもを見るようにしようという制度なので結果として、保育園と同じ開園時間しかその「保育ママ」は働かないということになっております。

これではいけないので、その隙間となる1時間、2時間を預かってもらうような人として「保育ママ」という制度を使えるようにできないかと、知事会でそういうプロジェクトチームのメンバーになっているので、私どもは先日も内閣府に行って、さらに議論をしているところなんです。恐縮ながら、「あったかふれあいセンター」の取り組みとか、放課後の学び場づくりぐらいですと県独自で全部やっていますけれど、そこから先の、延長保育の問題、(乳幼児の)医療費の無料化とかいう話は、ある意味国レベルの話だと思っています。こういうものについては、国にも訴えを続けていきたい。ニーズはよく把握しているつもりですから、声を大にしていきたいと思います。

ただ地域から声を上げて教えていただくというのも非常に重要ですから、そのところ

はいろいろ教えていただきたい。

今まで多分、声をあげられても金がないのでできませんで終わってたと思いますが、できる限りのことはやろうということで、「日本一の健康長寿県構想」という中でもこの高知型福祉、これは1つの大きな柱となっております。それから教育改革についても、教育委員会の所管なんですけど、ただ（知事には）予算編成権と総合調整権というのがありますので、徹底してこの教育問題は、教育長と一緒に取り組みを進めているところです。

先ほど仰ったように、いろんな、例えば高校生レベルでも課題はありますでしょう。この高校生レベルで課題があるということが、特に県外で就職するにあたっては高校生自らのいわゆる競争力ということになるわけです。これをしっかりつけておいてあげないと、県外で就職できないということになりかねない。今みたいな厳しい時代には特にそうなってしまいます。ですが、もっと言えば、その以前の問題として中学校レベルでどうか、小学校レベルでどうか、もっと、究極的に言えば幼児教育レベルでどうかという問題になるんですが、明らかに今問題があるのは、中学校レベルです。小学校レベルは、問題がありました。しかし、この前学力テストをやりました。何とか全国平均ドンピシャリですよ。これ、どうのこうのと言って試行錯誤がありましたけど、底上げが図られていれば、全国平均ドンピシャリのところまでは行ってると思ってます。

中学校（の学力の現状）は大変です。学力テストは、平均値よりもかなり低い46番です。そして、平成19年の段階の話ですが、いじめ・不登校の出現率も全国ワースト1でした。体力テストも全国最下位でした。知・徳・体全てに問題があるわけです。

子ども一人ひとりに寄り添ってという理念も重要ですが、大切なことは、具体的に授業を変える、放課後を変えることだと私は思っております。

そしてもう1つ、先生の質を上げることが究極の解決策です。

一定、先生のレベルを上げていく取り組みは集中して徹底的にやります。そしてまた、放課後子どもたちがしっかり勉強できる体制作りとすることも重要だと思ってます。

単元テストや教材の充実などの取り組みを今始めているところで、19年から22年にかけての学力テストの改善率という点については、高知県は全国で全部ナンバー1なんですけど、まだ46番です。これを何とかする、その取り組みを継続していきたいと思えます。

あわせてさらに、高校生ぐらいになってくると、就職対策で我々も本当に苦労するのですが、社会人としてのマナーとかを学ぶような教育も非常に重要になってこようかと思えます。企業の皆様にもご協力いただいてインターンシップとかをやらせていただいたりしていますが、またそういう点についても引き続きご協力をいただきたいと思います。

教育の面、まことにご指摘ごもっともだと思いますので、一生懸命汗をかいて、努力を重ねます。

交通アクセスの話は、窪川から西、中村までということで今一生懸命やっていますね。「四

国8の字ルート」を完成させるということで、いわゆる同じような問題を抱えている知事と連携をして訴え続けています。いつも訴えているのは、「8の字ネットワーク」ができれば、宿毛から大阪までなら6時間圏内に入ります。すると、宿毛の朝採れの野菜とか魚とかを昼には大阪のマーケットに並べられるようになると、宿毛は劇的に変わるはずなんです。これは多分、工業、製造業でも言えることだと思います。

とにかく徹底して取り組みを進めていきたいと思っています。まず中土佐町は来年2月から3月に開通、窪川は平成24年度中には開通すると思います。そこから先の金上野（キンジョウノ）から拳ノ川（コブシノカワ）は、国土交通省へ訴えて、もう今事業着手中ですから。拳ノ川から佐賀までというのが今訴えているところです。ちなみに平田から宿毛まで（の高規格道路）も平成20年代後半には完成すると思います。とにかく窪川までについては、予算についてはもう大丈夫なので、物理的にどれだけ工期がかかるかという問題であって、こちらも全速力でやっているということです。

やっぱり「8の字ルート」を作っていくにあたって、一番多分苦戦するだろうと言われているのが交通量、人口がより少ないということで、四国の東のほうなんです。両端から伸ばしていくような概算要求を国土交通省がしてますので、やっぱり「8の字」の意義っていうのは、一定、理解してくれつつあるんじゃないかなと思っています。この「8の字ネットワーク」作っていくというのは政治力がいるので、同じような思いを持っている知事と連携をする。まして四国4県の知事が連携するということは絶対重要です。

もう1つは、（県選出の）国会議員の方とも是非タッグを組んでいただかないといけません。私は今、最高の政治環境じゃないかなと思っています。この連合艦隊を引き続き維持していくべく努力をしていかないといけないと思います。

瀬戸大橋完全無料というのはちょっと無理だと思います。あれも膨大な税金を突っ込んでやっていますから。ただし、ほかの高速道路よりも高い値段というのは是非勘弁してほしいということを訴えているところで、せめて他の高速道路と平等にいけるように、努力します。

くろしお鉄道の話は、会社に話をしてみたいと思いますけれど、なかなか採算厳しいですから、申し訳ないですが、そういうご意見がありましたということで話をさせていただきたいと思います。利便性が向上する、利用が増えるという話と、コストがどうなるかというとの見合いで考えるという話になるだろうと思いますので、そこは理解いただきたいと思います。

「土佐・龍馬であい博」で宿毛の名前が出ていないという話、本当に申し訳ございません。改善していますので。